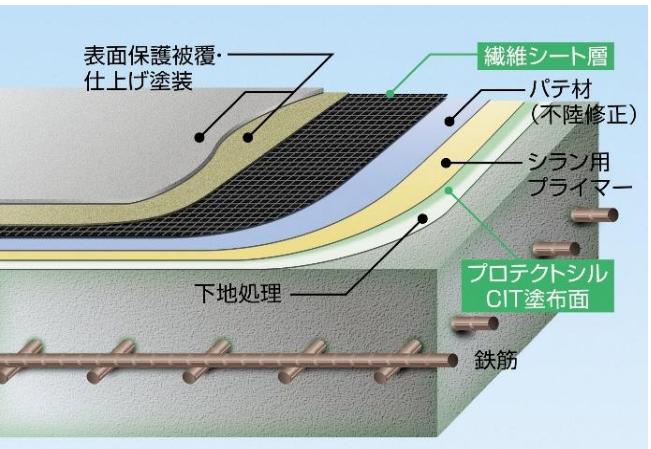


# 施工時活用評価表

様式6-1

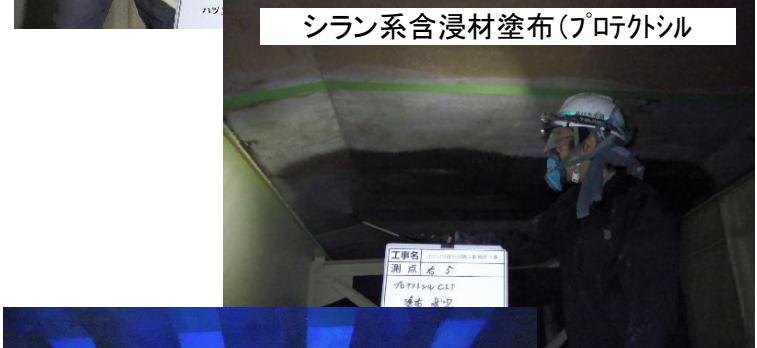
技術名 塩害を受けたコンクリート構造物の補修・補強工法 (ハイブリッド・塩害補強工法)		登録 No. 2019D102
施工内容		
施工年度	令和6年度	
発注機関	新潟県魚沼地域振興局	
工事名	橋単縫第1801-00-00-02号 日252号砂田橋床版補修工事	
施工地	新潟県魚沼市神明地内	
施工数量	88m <sup>2</sup>	
新技術の概要		
塩害環境下の鉄筋コンクリート構造物に対して、鉄筋腐食抑制効果を有するシラン系含浸材の塗布面に、連続繊維シート補強材の付着を可能とすることで、鉄筋腐食抑制と補強を両立させる工法		
活用評価結果		
比較した 従来技術		断面修復工(亜硝酸リチウム混入モルタル)+炭素繊維接着工法
項目	評価	評価内容
経済性	<input type="checkbox"/>	本現場は緊急工事であり、従来技術を採用した場合は、はつり量が想定できず、はつり及び断面修復範囲の減少によるコストダウン効果が定量化できなかった。
工程	<input type="checkbox"/>	本現場は緊急工事であり、従来技術を採用した場合は、はつり量が想定できず、はつり及び断面修復範囲の減少による工程短縮効果が定量化できなかった。
品質出来形	<input checked="" type="radio"/>	構造物内部から鉄筋腐食を抑制し、再劣化防止により長寿命化が期待できる。通りがよく仕上げられる。
安全性	<input type="checkbox"/>	従来技術と同様であった。
施工性	<input type="checkbox"/>	施工に熟練度を要しない点を除いて、従来技術と同様であった。
環境	<input type="checkbox"/>	従来技術と同様であった。
その他	本現場は緊急工事であり、経済性及び工程の評価が従来技術と同程度であったが、通常の断面修復工の現場であれば、経済性の向上及び工期短縮が期待できる。	
◎:優れている ○:やや優れている <input type="checkbox"/> :従来技術と比べて同程度 <input checked="" type="checkbox"/> :やや劣っている ×:劣っている		
活用上の 留意点		気温および軸体温度が5°C以下、40°C以上では施工しない。 施工面の含水率が8%を超える場合施工しない。
新技術問い合わせ先		
会社名	株式会社レックス	
所属部課	技術部	
担当者	小林徹	
T E L	025-287-6811	



新技術の概要: 施工模式



施工状況: 断面修復工(はつり)



シラン系含浸材塗布(プロテクトシリ



炭素繊維シート接着工



仕上げ塗装工